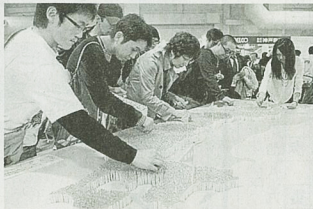


マッチ 4 万本の被災地地図

中央区で
参加者ら

神戸マラソン参加者の受付会場となった神戸国際展示場（神戸市中央区）では19日、県の地場産品でもあるマッチで東日本大震災の被災地の立体地図を作るイベントが開かれた。受付を済ませたランナーらが1本ずつマッチを差し込み、地図は約4万本の復興の願いで埋め尽くされた。

マッチ製造メーカー21社による「日本燐寸工業会」（同区）の企画。義援金に協力すると、発火剤を抜いた緑色の特製マッチ22本を受け取れ、東日本



被害が大きかった東日本大震災の被災地地図上にマッチを差し込むマラソン参加者ら—神戸市中央区で

の地図をかたどったパネル（縦1.5m、横3m）に差し込む。参加した愛媛県松山市の会社員、森亜紀子さん（40）は「復興に向けて頑張ってもらいたいし、その思いを胸に自分も完走したい」と話した。

マッチは明治～大正期の神戸港の主要輸出品で、県内生産量は現在も全国の9割超。マッチ製造会社「ナカムラ」（同市長田区）の中村和弘社長（47）は「阪神大震災で約1カ月間生産停止に追い込まれ、もうだめだと思ったが復興できた。東日本大震災の被災地にも希望のあかりを届けたい」と語った。

【重石岳史】